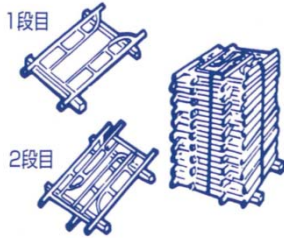


梱包方法例

荷姿は納入時と出来るだけ同様に、必ず番線等で結束をお願いします。

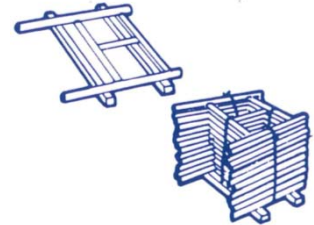
★鳥居型建枠

同じものを交互に20段積とし、1段目40枚にて番線で結束してください。



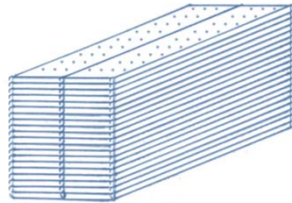
★梯子型建枠

同じものを同じ向きに積み上げ、20段20枚にして番線で結束してください。



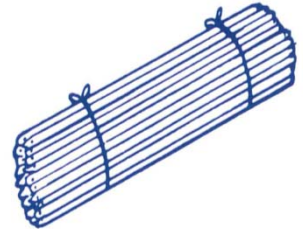
★鋼製布板

同じものを20枚2列で1梱包として結束してください。
(一番下は裏返しをお願いします。)



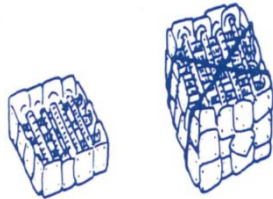
★筋交・手摺・手摺柱・パイプ部材等

長さ別、種類別に50本または100本で結束してください。
(少数のものはあるだけで結構です。)



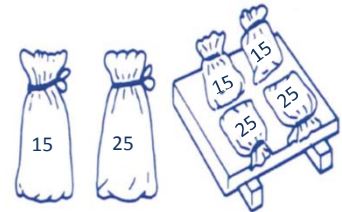
★ジャッキ・大引受

50本ずつプレートを外側に向けて積上げ、番線で結束するかパレット等、台の上に同様に積んでください。



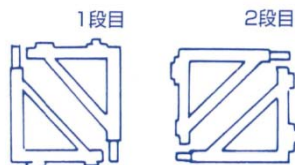
★ピン・クランプ等・小物部品類

同種類のものを15個または25個で袋詰めにしてまとめてください。
尚、チェーンは5本ずつ袋詰めにしてください。



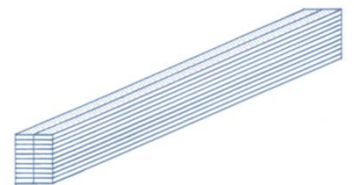
★伸縮ブラケット

同じものを図のように10段積みとして20本でひと縛りにしてください。



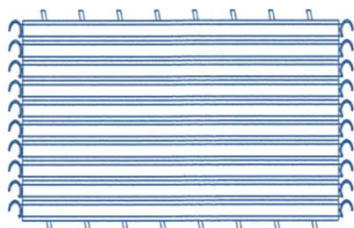
★足場板

同サイズの足場板を10段積みとして20枚でひと縛りにしてください。



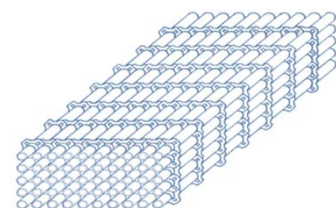
★階段

図のように10段積みまでで1梱包としてください。



★ミレニウム支柱

同サイズの柱を図のように5段10列で番線等で結束してください。



資材のお取扱い注意事項

アルミ製品のお取扱いについて

近年お客様のニーズにより、「より安全で使いやすい商品を」とのお声から【アルミ製商品】の導入を積極的に進めております。

【アルミ製商品】は従来の【鋼製商品】に比べまして、非常に軽量で取扱いが容易であり、各種付加機能の付いた、より便利な商品であります。ただ、【鋼製商品】に比べ割高な商品であり、構造が複雑な部分や強度的に劣る部分があるというデメリットもあります。

現状では、【鋼製商品】に比べ、現場でのご使用で破損したり、修理が必要になるケースが多く見受けられます。

【アルミ製商品】のご使用に際しましてはそのお取扱いにご注意頂くとともに、当方の検収チェックの結果修理等必要な場合には、当社規定の【修理・滅失料】のご負担をお願いする事をご了承願います。

弊社では、お客様に安心して商品をお使い頂くため、また、お客様のご負担を軽減するため、商品の点検・整備の社員研修を実施し、修理が必要な場合も自社でパーツ交換を行うなど最大限の努力をしておりますので、どうかご理解、ご協力をお願い致します。

《当社取扱いの主なアルミ製商品》



マキシムベース



法面2号



アルミ脚立



アルミ階段



アルミ内階段



梯子一連



梯子二連



アルミ製足場板



アルミハッチ付布板



アルミハッチタラップ付布板



セフトパラペッターetc

資材のお取扱い注意事項

持送りわく(伸縮ブラケット)使用についての重要なお知らせ

《事故事例》

過去に、持送りわく(以下、伸縮ブラケットと表記)の誤った使用により、伸縮ブラケット本体とクランプを固定するボルトが破断し、落下する事故が発生しました。

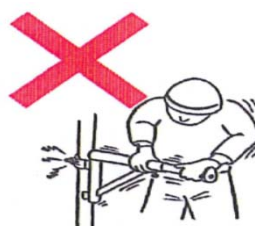
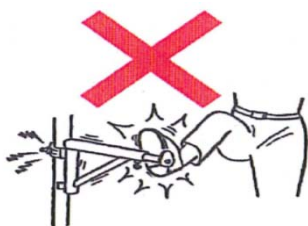
今後、このような事故を再発防止するために、下記の注意事項の徹底をお願い致します。

伸縮ブラケット使用時の注意事項

- ① 伸縮ブラケットを水平移動される際には、必ず、クランプのボルトを適切に緩めてから行って下さい。

クランプのボルトを緩めずに先端を移動された場合、「てこの原理」により固定ボルトが破断する可能性があります。

※クランプのボルトを緩めすぎには注意して下さい。落下する危険性があります。



- ② 伸縮ブラケットの用途以外(ウインチの吊り下げ、荷揚げ作業等)には使用しないで下さい。

※用途:(社)仮設工業会が発行する足場工事实務マニュアルより抜粋
持送りわくは、「建物の傾斜や凹みなどによって、足場から壁面が離れている時、足場から作業床を張出す必要が生ずるが、この張出し作業床の支えとして使用されるもの」と記載されています。

- ③ 伸縮ブラケットの許容積載荷重(200kgf(2.45kN)/本)を厳守して下さい。
- ④ ご使用の前に、取付金具やボルト・ナットを点検していただき、変形などの異常がある場合は使用しないでください。

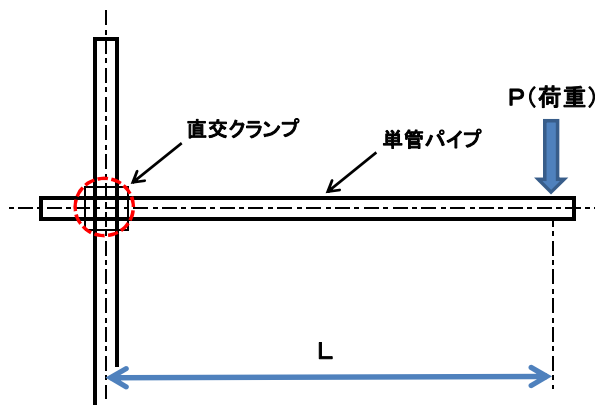
直交クランプ使用についての重要なお知らせ

【発生事例】

- ①直交クランプで直角(90度)にならない物がある。
- ②直交クランプを構成する1対の単クランプが破断して返却される物がある。

【発生原因】

右図の様に足場パイプを片側だけで支持した場合その端部に荷重が加わると予想以上のせん断力が働き、直交接合リベットが変形もしくは破断する。(この場合右図Lが大きいほど容易に破断に至る)



【検証実験】 足場の縦地に、直交クランプで2mのパイプを固定して端部に人力で荷重をかけてみる。(L=約1.8m)

➡ ③直交リベットが破断し始める ➡ ④完全に直交リベットが破断

➡ ②パイプの端部に荷重をかける

①片側を直交クランプで固定



《 クランプ使用上の注意点 》

- ①クランプで張り出した足場パイプに片荷重をかけないで下さい。
 - ②クランプは、1本の単管パイプに必ず2個以上で使用して下さい。
 - ③クランプの許容強度(直交=4.9KN・自在=3.43KN)の範囲内で使用して下さい。
 - ④クランプのボルトの締め付けは、ラチェット・スパナ等、適合する工具を使用して下さい。(締め付トルクは、3.43KN/cm程度とする)
 - ⑤クランプを高所から落としたり、ハンマー等で叩かないで下さい。
- * 直角にならない、或いはガタツキのある直交クランプを発見した場合には絶対に使用しないで下さい。**

クランプのお取り扱い注意事項

【①ナットの締め過ぎによるクランプの蓋の変形】

- * インパクト使用等で締め過ぎますと、クランプの蓋・ツメ部が変形し、再利用が出来なくなります。適正なトルクでのご使用をお願いします。



(適正な状態)



(締め過ぎでツメ部が変形した状態)

【②ナットの緩め過ぎによるナットの食い込み】

- * インパクト使用等で緩め過ぎますと、ナットがボルトのカシメに食い込んでしまい、正常な状態に戻すのが困難となり、再利用が出来なくなる場合があります。緩め過ぎにはご注意ください。



(適正な状態)



(緩め過ぎてカシメに食い込んだ状態)



注意事項

- ①クランプのボルトの締め付けは、ラチェット・インパクト等、適合する工具を使用して下さい。
 - ②締め付けトルクは、3.43KN/cm(350kgf)程度でお願いします。
 - ③クランプを高所から落としたり、激しい衝撃を与えないで下さい。
- * 蓋やツメの変形が見られる物や、ナットの回らないクランプがあった場合には使用を中止して下さい！
 - * その他、変形やガタツキなど、異常の見られる物は使用しないでお知らせ頂きます様お願いします。